

「飲み薬の治療では血糖コントロールが不十分ですね。インスリン注射を打ちましょう。」「先生、待って下さい。注射は嫌です。それに仕事（介護）が忙しくて毎日注射するなんてとても無理です。」これまでインスリン注射をめぐるお医者さんと患者さんの会話は、たいていこんな感じでした。

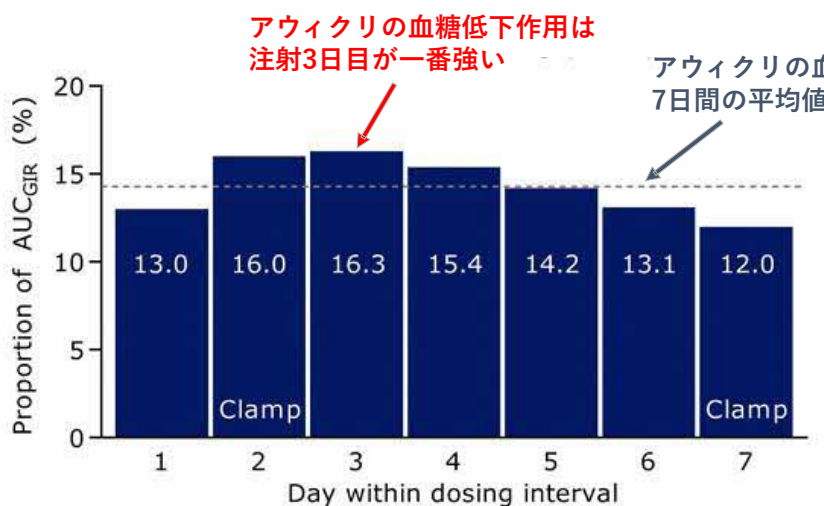
ですが、これからは違います！ 2025年12月から週1回の注射で済む持効型・基礎インスリン製剤「アウィクリ注フレックスタッチ」の長期処方解禁となったんです。皆が待ち望んでいた“毎日打たなくてよい”“週1回の注射で1週間効き目が持続する” first in class（従来の医薬品とは異なる新しい作用機序を持つ）のお薬です。



主任部長、アウィクリが使えるようになるのを、首を長くして待っていました。毎日毎日、一日も欠かさずインスリン注射を打って治療に取り組んでいる糖尿病患者さんの負担を軽くすることができる画期的な新薬です。

しかしそんな素晴らしい新薬も、いいことばかりではありません。アウィクリは従来のインスリン製剤と比べて、低血糖が多いことが報告されています。そしてその低血糖は、アウィクリを注射して2～3日目に一番多いと言われています。

アウィクリ注フレックスタッチは、注射3日目の血糖低下作用が一番強い



ということは…

アウィクリを注射して2～3日目が、一番低血糖のリスクが高い。

アウィクリを打った6～7日目は、普段より少し血糖値が高めになる可能性あり。



週1回の注射で済みますが、低血糖には十分注意する必要があります。

Open access Original research
BMJ Open Diabetes Research & Care
Molecular and pharmacological characterization of insulin icodec: a new basal insulin analog designed for once-weekly dosing
Erica Nishimura¹, Lone Pridal¹, Tine Glendørf¹, Bo Falk Hansen¹, František Hubálek¹, Thomas Kjeldsen¹, Niels Rode Kristensen², Anne Lützen¹, Karsten Løj², Peter Madsen¹, Thomas Askov Pedersen¹, Rasmus Ribel-Madsen², Carsten Enggaard Stidsen¹, Hanne Haahr²

2025 年 12 月 5 日 Weekly Insulin & Obesity Semaglutide Update Seminar が Web 配信されました。この講演会で主任部長は、座長（司会進行役）のお仕事を頂戴しました。アウィクリ注フレックスタッチの使用経験が豊富な白岩先生から、週1回持効型・基礎インスリン製剤の実際の使い方と

注意点についてご講演を賜りました。なんと白岩先生は主任部長の大学時代のスキー部の先輩！でして、学生時代は長野県のスキー場で長期合宿を行い、同じ釜の飯を食べ、朝から晩までゲレンデで練習に励んだ体育会系競技スキー部の頼れる先輩なんです。大学を卒業して早 25 年が過ぎましたが、先生は現在も精力的に糖尿病内科専門医 & スキーヤーを（最近はゴルファーも）されているようで、自宅と病院とスーパーしか行かない主任部長からすると、本当に超人的です！



Web 講演会の様子、スタジオでライブ配信中です。
お写真の掲載に白岩俊彦先生のご了承を得ております。

主任部長が一番感動したのは、白岩先生のクリニックで、週 1 回持効型・基礎インスリン製剤であるアウィクリ注フレックスタッチを導入された高齢女性患者さんのお話です。患者さんは認知症がありご自分でインスリン注射を打てません。「患者さんをご近所にお住まいですので、週 1 回うちのクリニックに来て頂いてアウィクリを注射しています。」北河内地域・急性期医療の中核を担う市立ひらかた病院ではなかなかこうは行きません。最先端の糖尿病医療と、クリニックならではの患者さんとの親密な距離感のベストマッチに主任部長、本当に素晴らしい医療を提供されているなど、頭が下がる思いでした。

白岩先生の今後益々のご活躍をお祈りすると同時に、これからも後輩として、同じ糖尿病内科専門医として変わらずご指導賜りますよう、どうぞ宜しくお願い致します！

